

フロアマップ



大塚国際美術館
OTSUKA MUSEUM OF ART

世界初の陶板名画美術館

古代壁画から世界26ヶ国190余の美術館が所蔵する現代絵画まで
至宝の西洋名画を原寸大で1,000余点

「大塚国際美術館」は大塚グループ創立75周年記念事業として徳島県鳴門市に設立した、日本最大級の常設展示スペース(延床面積29,412㎡)を有する「陶板名画美術館」です。館内には、6名の選定委員によって厳選された、古代壁画から世界26ヶ国190余の美術館が所蔵する現代絵画まで、至宝の西洋名画1,000余点を大塚オーミ陶業株式会社の特殊技術によって、オリジナル作品と同じ大きさに複製しています。それらは美術書や教科書と違い、原画が持つ本来の美術的価値を真に味わうことができ、日本に居ながらにして世界の美術館が体験できます。

また、元来オリジナル作品は近年の環境汚染や地震、火災などからの退色劣化を免れないものですが、陶板名画は約2,000年以上にわたってそのままの色と姿で残るので、これからの文化財の記録保存のあり方に大いに貢献するものです。

門外不出の「ゲルニカ」をはじめ戦争で散逸していたエル・グレコの祭壇画の衝立復元など画期的な試みもなされ、1,000余点の検品のために、ピカソの子息や各国の美術館館長、館員の方々が来日されたおりに美術館や作品に対して大きな賛同、賛辞を頂きました。このように「大塚国際美術館」は、技術はもとより構想においても世界初のそして唯一の美術館といえます。

大塚国際美術館館長 大塚 一郎

絵画学術委員会(2017年8月現在)

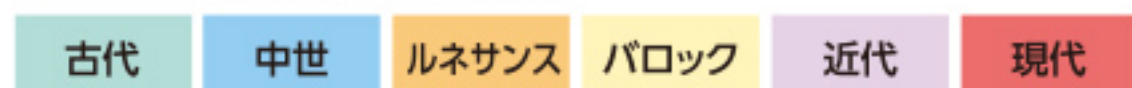
青柳 正規 (委員長)	東京大学 名誉教授	古代
小池 寿子 (委員)	國學院大学 教授	中世
小佐野 重利 (委員)	東京大学 名誉教授	ルネサンス
大高 保二郎 (委員)	早稲田大学 名誉教授	バロック
千足 伸行 (委員)	成城大学 名誉教授	近代
木島 俊介 (委員)	共立女子大学 名誉教授	現代

3つのユニークな展示方法

大塚国際美術館に展示されている1,000余点の陶板による西洋名画は、青柳正規東京大学副学長(1998年3月当時、現東京大学名誉教授)をはじめ6人の著名な美術史家によって選定されました。展示は西洋美術をより深くそして楽しく理解していただくために、「環境展示」「系統展示」「テーマ展示」の3つからなっています。

環境展示 古代遺跡や教会などの壁画を環境空間ごとそのまま再現した今までにない臨場感を味わえる立体展示です。

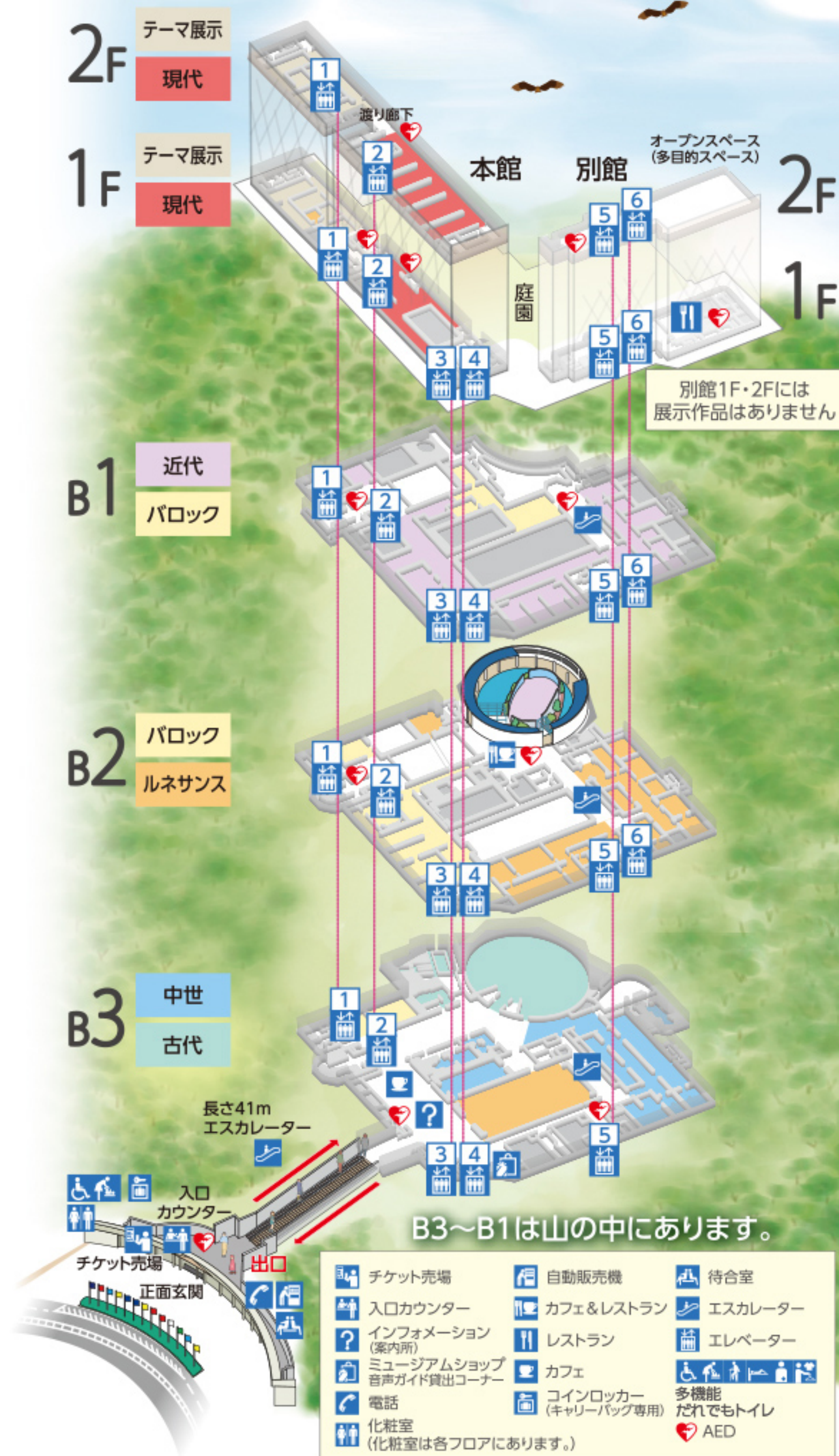
系統展示 古代から現代に至るまでの西洋美術の変遷が美術史的に理解出来るように展示しています。



テーマ展示 人間にとって根源的かつ普遍的な主題など、時代を超えて古今の画家達の描いた代表的な作品をテーマごとに展示しています。それぞれの表現方法の違いを比較することができます。

- 空間表現 ● トロンプ・ルイユ(だまし絵) ● 時 ● 生と死
- 食卓の情景 ● 家族 ● 運命の女 ● レンブラントの自画像

表紙:ゴッホ「ヒマワリ」1945年兵庫県芦屋市にて焼失



B3

古代
中世



地図の中の番号は展示室番号です。
床の矢印が順路(展示室番号順)です。



- インフォメーション (案内所)
- コインロッカー
- 化粧室
- 多機能だれでもトイレ
- エレベーター
- エスカレーター
- ミュージアムショップ
- カフェ
- 自動販売機
- ATM
- 授乳室
- AED

車椅子、ベビーカー、シルバーカーの貸し出しは、B3インフォメーションまで

★モデルコース (B3のみ約25分)



B2

ルネサンス
バロック

地図の中の番号は展示室番号です。
床の矢印が順路(展示室番号順)です。



Café de
Giverny

(カフェ・ド・ジヴェルニー)
10:30~16:00
フードメニュー 15:00まで

- 化粧室
- 多機能だれでもトイレ
- エレベーター
- エスカレーター
- カフェ&レストラン
- 自動販売機
- AED



★ モデルコース (B2のみ約20分)



B1

バロック
近代

地図の中の番号は展示室番号です。
床の矢印が順路(展示室番号順)です。



ヒマワリ
フィンセント・ファン・ゴッホ



- 化粧室
- 多機能だれでもトイレ
- エレベーター
- エスカレーター
- 自動販売機
- AED

★ モデルコース (B1のみ約20分)



★ 59
ゴヤの家「黒い絵」
環境展示



★ 60
7つのヒマワリ
フィンセント・ファン・ゴッホ



★ 66
民衆を導く自由の女神
ウジェーヌ・ドラクロワ



★ 69
笛を吹く少年
エドゥアール・マネ



★ 69
セーヌ川の舟遊び
オーギュスト・ルノワール



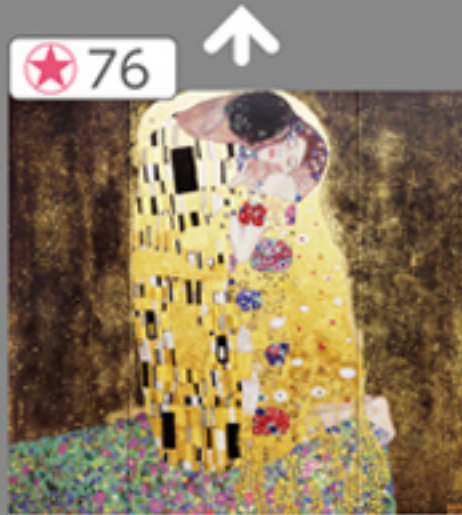
★ 68
落ち穂拾い
ジャン＝フランソワ・ミレー



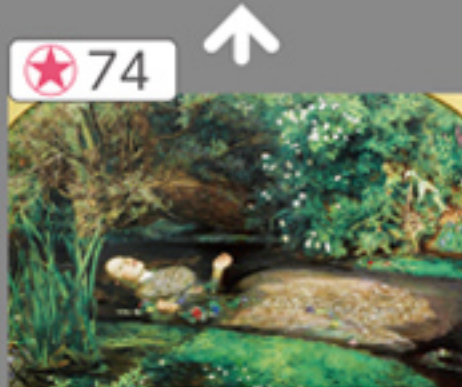
★ 80
叫び
エドヴァルト・ムンク



★ 77
皇帝ナポレオン1世と
皇后ジョゼフィーヌの戴冠
ジャック＝ルイ・ダヴィッド



★ 76
接吻
グスタフ・クリムト



★ 74
オフィーリア
ジョン・エヴァレット・ミレイ

2F

地図の中の番号は展示室番号です。
床の矢印が順路(展示室番号順)です。



現代
テーマ展示

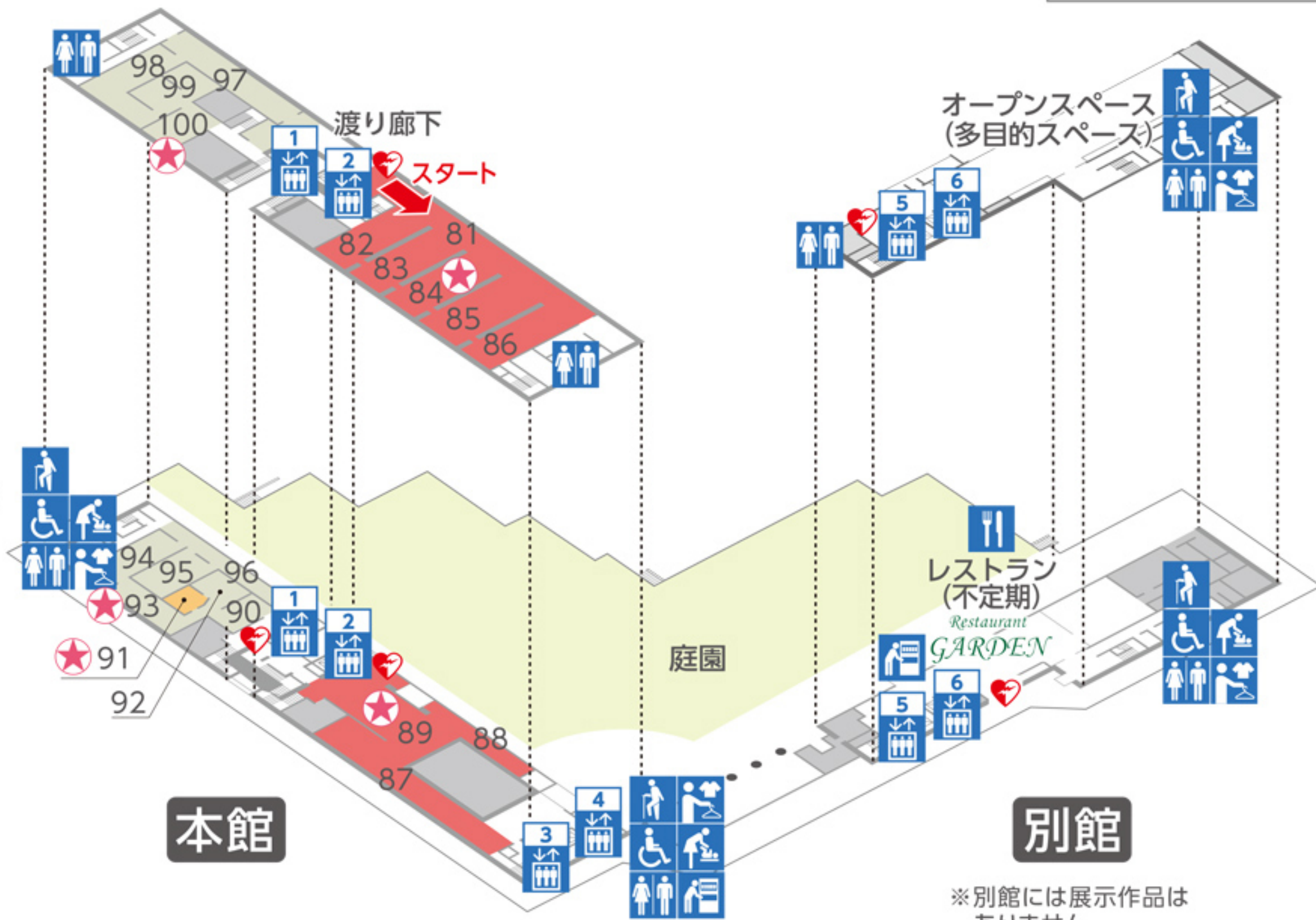
- 97. 食卓の情景
- 98. 家族
- 99. 運命の女
- 100. レンブラントの自画像

1F

現代
テーマ展示

- 90.92. 空間表現
- 93. トロンプ・ルイユ (だまし絵)
- 94. 時
- 95.96. 生と死

- 化粧室
- 多機能だれでもトイレ
- エレベーター
- 自動販売機
- レストラン
- AED



レストラン
(不定期)
Restaurant
GARDEN

別館

※別館には展示作品はありません。

本館

★ モデルコース (本館 1F・2F のみ約 15 分)



高度な特殊技術によりつくられた 陶板名画ができるまで

～2000年たっても色あせない、忠実に再現された名画～

陶板名画とは、大塚オーミ陶業株式会社の特殊技術により陶器の大きな板に原画に忠実な色彩・大きさを再現したものです。紙やキャンバス、土壁に比べ色が経年劣化せず、また大きさも原寸大に再現されているため、実際の名画を見るがごとくの迫力や臨場感を味わうことができます。

①原画の著作権者・所有者へ許諾取得

②現地調査・原画撮影

③色の分解

④転写紙に印刷

⑤陶板に転写



③色の分解



④転写紙に印刷



⑤陶板に転写

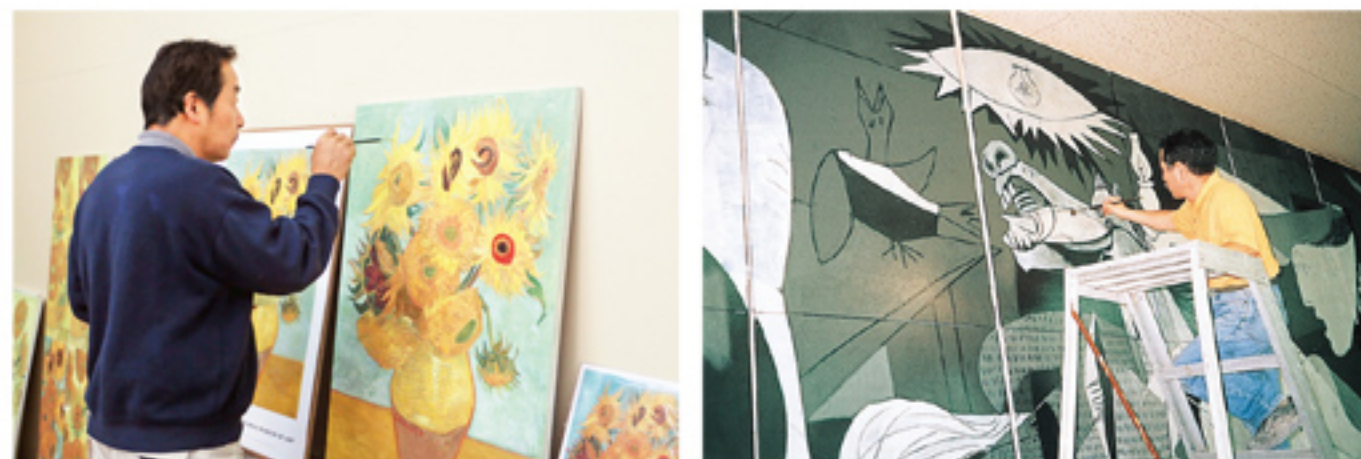
⑥焼成

約1300度で焼きつける。



⑦レタッチ

技術者の手仕事により、作者の筆遣いなどの再現を追求。



⑧焼成

⑨検品



「ゲルニカ」(陶板名画)を検品するクロード・ピカソン氏

⑩陶板名画の完成

「一握りの砂」

大塚国際美術館初代館長
大塚 正士（故人）
（大塚グループ各社元取締役相談役）



今般、皆様のご援助によりまして、大塚グループ創立 75 周年記念事業として「大塚国際美術館」を設立致しました。昔を思い出しますと、私が 5 歳の時です。父・武三郎が大塚製薬を創業しまして、私を肩車で工場設立の現地に連れて行ってくださいました。親方の工場と比べてあまりにも建物が小さいので「お父さん、うちの工場ってこんなに小さい工場かい」と言いますと「おお、今は小さいけれどもそのうちに親方の工場より大きくするぞ」と、その言葉がまだ耳に残っております。ついこの間のことのように思われますけれども、それから 75 年経ったわけです。

徳島県に貢献する一握りの「白砂」

我々が今回のような美術陶板の開発に着手したのは、今から 27 年前のこと、私が大塚グループ各社の社長をしておりました時に、グループ会社の一つの、大塚化学の技術部長であった私の末弟・大塚正富（現アース製薬株式会社社長）と、技術課長の板垣浩正（現大塚オーミ陶業株式会社取締役）の 2 名が私のところにやって来て、一握りの砂を机の上に盛り上げたことから始まります。「社長、実はお願いがあるのです。」「その砂はどうしたのだ？」と尋ねますと「これは鳴門海峡の砂です。」と言います。うちの工場は紀伊水道に面していて白砂海岸がずっと海峡まで続いており、その白砂です。「実はこの砂でこれからタイルを作ろうと思っております。この砂はコンクリートの原料として採取し、機帆船で大阪や神戸へ陸揚げして、建築用としてトン幾らで販売しているのです。しかし、これをタイルにして 1 枚幾らで販売すると非常に価値のある商品になり、徳島県のためにも、また大塚のためにもなりますので、是非とも県知事に話してこの白砂を採取し、タイルを作る許可を貰ってほしいのです。」とのことでした。直ちに当時の知事、武市恭信氏に話をし許可を得たのですが、彼ら 2 人は大塚が着手しないのなら会社を辞めるとまでの大変な意気込みでして、私も感心したのです。

技術に優れた「大塚オーミ陶業」の設立

そういう経緯の後、鳴門の工場内に炉を作りタイルの製造を始めたのですが、小さなタイルからはじめ、次第に大きなタイルが出来るようになり、ついには 1 メートル角のタイルを作っても歪みや割れが一つもなく、20 枚作れば 20 枚とも 100%合格の商品に出来上がるようになりました。そもそも陶磁器で大型製品を制作することさえ難しいのに、まして 1 メートル角の陶板を歪みなしに作るということは非常に困難なのです。その頃はアメリカでも 20 枚中 19 枚が不良品になって、1 枚だけが合格するという状態でしたので、我々の技術は非常に優れていたと言えます。「いや、これは素晴らしい」ということでしたが、更に高度な製造技術力を得るため、滋賀県信楽町の近江化学陶器株式会社（当時社長・奥田孝氏、工場長・奥田實氏 [現大塚オーミ陶業株式会社社長]）と大塚が合併して新会社を設立いたしました。それが大塚オーミ陶業株式会社で、社長には私が就任しました。

転機の訪れと、「世界初」の成功

ところが、会社設立の昭和 48 年は、皆様もご存知の通り石油ショックが来まして、石油価格が 12 倍にも高騰し、ビルの建設が全面停止になるという異常事態が起こりました。我々としても、会社は設立したものの操業が出来なかったのです。その時に役員一同頭を抱えて考えた末、「陶板に絵を描いて美術品の方に移行しようじゃないか」ということになり、まずは尾形光琳の「燕子花（かきつばた）」を作りました。なにしろ 1 メートル×3 メートルという大きな陶板が無傷で焼けるものですから、これを数枚並べればよいのです。そのうち更に大型の美術陶板が制作出来るようになりましたが、より完成度の高い美術品を追求して新しく焼き、作り、且つ壊しながら日々研究努力を続けてまいりました。これから色の道に対する我々の苦勞が始まったのです。なにしろ 2 万点に近い色を開発したのです。元来こういった美術品、殊に今回のような国際的なピカソやミロなどを含む有名絵画を、陶磁器に、しかも原寸大に複製したということは日本は勿論のこと、世界にも例を見たことがありません。その大型美術陶板の開発に大塚が成功したのです。

新しい切り口

また、昭和 50 年、私は大鵬薬品の制癌剤の契約でモスクワに行った折に、郊外の墓地をお参りしましたが、フルシチョフ氏のお墓には氏の写真や、別のお墓には大戦で戦死したソ連兵士や看護婦の名刺大の写真が、貼ってあるのを見ました。フルシチョフ氏の写真は、日本の週刊誌くらいの大きさでしたが、これは無論タイルでなく紙写真で

すから、表面をビニールで覆ってあるので雨は避けるものの太陽の紫外線は避けられず、新仏でまだ日が経っていないのに写真の顔は、焼けたり、くすんだりして色褪せておりました。その時私はこれを陶板に焼きつけることが出来れば非常に立派な写真が出来て、永遠に変色なしに保存出来ると気が付きました。

「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」と言われていますが、実際に名を残せる人は非常に稀です。しかし、写真陶板で自分の姿を永遠に残すということならば誰にでも出来ます。

かつて、中国の景德鎮や日本の有田焼を積んだオランダ商船がヨーロッパと交易していましたが、途中嵐に遭ってインド洋に沈没した船の荷を、数百年後に引き揚げたところ、陶磁器類は昔のままの色と姿で残っていました。その時代には、陶器はおおよそ1,000度で焼いていましたが、現在、我々の美術陶板は1,300度で特殊技術をもって焼くわけですから、1,000年、否、2,000年経ってもそのままの姿で残るに違いないのです。また一方先祖についていえば、私も祖先は曾祖父辺りまでは知っていますけれども、その上のじいさんばあさんはわかりません。皆様も同じだと思いますが、それは写真がないからです。同様に、日本の天皇陛下のご先祖であらせられる神武天皇とか天照大神、ずっと後の武田信玄や上杉謙信、または織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、毛利元就等々、肖像画はあっても写真は存在しません。けれど、もしこれを大塚の写真陶板で焼き上げていたら半永久的に真実そのままの姿で残るので、日本の歴史も変わっていたことでしょう。我々は、日本の現在の真実の姿を後世に伝えていかなければならないし、また一家の先祖を尊ぶためにも「先祖に供養」「両親に孝養」というのが、我々子供としての務めですから、そのためにも立派な写真（肖像）陶板をカラーや白黒で作成したわけです。

大塚国際美術館の設立 ～徳島への感謝をこめて～

大型美術陶板・写真陶板の製作に成功した時は、丁度大塚は創業50周年でしたし「これで何か後世に残るもの、我々だけのものではなく、皆様と共有出来るものを作ろう」という話がありましたが、それが実現せぬまま、おやじは80歳で亡くなりました。それから25年経ち、とにかく終戦の時はたった17名の社員であったのが現在は社員23,000人に、殊に徳島県では社員7,000人の企業に成長致しましたことですし、永年大塚が徳島県にお世話になったお礼のために、おやじの遺志でもあり私も同様に考えておりましたので、75周年記念事業として是非とも徳島に造らねばならない、と現在の地、鳴門海峡に西洋の名画のみの美術館を造って、皆様に見て頂くという考えで「大塚国際美術館」を設立致しました。

変化する色彩 ～真実の姿を永遠に伝える陶板名画～

順調に工事も進み、展示作品も1,000点を超える数字となり、現在このように陳列を終えまして、無事開館できる運びとなりました。本館では東京大学の青柳正規副学長を長として、色々な学生に美術を教える、ということを中心に考えて古今の西洋名画の中から選んだ作品を展示してあります。これをよく見ていただいて、実際には学生の時に此処の絵を鑑賞していただいて、将来新婚旅行先の海外で実物の絵を見ていただければ我々は幸いと思っております。なにしろ、この絵は陶器ですから全然変化しません。本物の絵は次第に変化しますから、実物の色と、陶板名画の色とでは今から50年、100年経っていきますと、色や姿がおのずと違ってくると思います。しかし、どうしても真実の姿を永遠に伝えたい、後世への遺産として保存していきたい、ということで陶板名画美術館設立に至ったわけでございます。今回皆様にご覧いただき、間違ったところがありましたらご指摘いただいで訂正していき、とにかく1,000年、2,000年貢献していきたい、また徳島県のためにも美術館を通して貢献したいと思っております。

簡単ではございますが「一握りの砂」が、この大塚国際美術館設立の基本になったということをお客様にお伝えし、今後のご指導、ご援助をお願いしたいと思います。どうも有難うございました。

1998年3月



よくある質問 Q & A

Q1 鑑賞時間はどれくらい必要ですか？

A1 鑑賞ルートは約4kmあり、1日楽しんでいただけるほど広い美術館です。時間があまりない方は、各フロアマップ(P3～10)のモデルコース(B3～本館2F所要時間約1時間20分)をお楽しみ下さい。

Q2 撮影はできますか？

A2 記念撮影できます。※商業目的の利用は厳禁。
ただし、ストロボ・フラッシュ、三脚などの使用は禁止。
自撮り棒などを使用の場合は、十分注意すること。

Q3 音声ガイドの貸出しはありますか？

A3 B3 ミュージアムショップにて1台500円(税込)。展示作品1,000余点のうち、約100点を解説(収録時間約2時間)。

Q4 定時ガイドの集合場所はどこですか？

A4 **集合場所** B3 システィーナ・ホール
※ベンチにかけてお待ちください。

■美術ボランティアによる定時ガイド(各回約40分)
展示室をめくりながら作品を案内するガイドツアー。

【開始時刻】

10:30/11:00/11:30/12:30/13:00/14:00/14:30

【コース】

概要説明、B3～B2の見どころ 約5点

■美術館スタッフによる概要説明(各回約15～20分)
美術館の概要とシスティーナ・ホールを紹介。

【開始時刻】9:40/13:30

※定時ガイドは毎日開催、予約不要。日本語のみ
※定時ガイドの内容や時間が変更、休止の場合があります。
開催状況はB3インフォメーションでお尋ねください。

Q5 美術館専用駐車場行きシャトルバスについて

A5 17:00まで随時運行、無料

■開館時間 9:30～17:00

■休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)1月は連続休館あり
その他、特別休館あり 8月無休

■入館料 一般 3,300円
大学生 2,200円
小・中・高生 550円
(いずれも消費税等込)

※20名以上の団体は10%割引。

※学生の方は学生証の提示をお願いします。

※入館券の販売は16時で終了。

※当日に限り再入館可。一時退館前にインフォメーションで手続き要。

※障がい者手帳をお持ちの方は割引料金で入館できます。

■お願い



美術館の敷地内
(駐車場を含む)全面禁煙
[加熱式・電子たばこを含む]



食べ物の持ち込み不可



介助犬以外の
ペットの同伴不可



ストロボ・フラッシュ、
三脚などは使用不可



■大塚国際美術館

延床面積 29,412㎡ (約9,000坪)

展示フロア 地下3階・地上2階

設計 (株)坂倉建築研究所

施工 (株)竹中工務店

開館 1998年(平成10年)3月21日

メモ

開館時間

9:30～17:00



Café Vincent
(カフェ フィンセント)

B3

不定期

Café de
Giverny

(カフェ・ド・ジヴェルニー)

B2

10:30～16:00

(フードメニュー15:00まで)

Restaurant
GARDEN

(レストラン・ガーデン)

別館
1F

不定期

MUSEUM SHOP



音声ガイド
貸出コーナー

B3

9:30～17:00



大塚国際美術館

OTSUKA MUSEUM OF ART

〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

TEL 088-687-3737 FAX 088-687-1117

<https://www.o-museum.or.jp/>

E-mail: info@o-museum.or.jp



植物油インキを
使用しています

